

■夏休みに向けて



明日から夏休みになりますが、学習面、生活面、部活動など、1学期の反省をしっかりとしてみましょう。特に3年生諸君は、基本的に1年生のときからこの3年の1学期までの成績が進学・就職を問わず、志望校や志望企業に送られていくこととなります。大学や短大を推薦(指定校制や公募制など)で受験することを希望している諸君は、絶対的な条件の1つに評定平均値があります。今月半ばに、3学年の各クラスに指定校推薦の一覧表を配付しましたが、もし志望校の条件に届かなかった場合には、総合型入試などで受験していくしかありませんので、この夏休みを利用してしっかりと準備するようにしましょう。

1年生から3年生まで夏期講習や部活動などで毎日忙しく過ごしていく人も多くいることと思いますが、ほとんど学校に登校することなくだらだらと(?)過ごしてしまう人もいるかもしれません。特に後者に該当しそうな人はきっちりと計画を立てるところまでは求めませんが、毎日少しでも学習(夏休みの宿題や1学期の復習)に取り組み、また「夏休み中にこれだけは実行する!」という目標を持って生活してみましょう。後で振り返ったときに、「何の実りもない夏休みだった・・・」ということにならないようにしてほしいものです。

各大学・専門学校のオープンキャンパスも夏休み中に開催されます。今年度はコロナ禍で、リモートでのオープンキャンパスが多くなるかもしれませんし、人数制限もあるものと思われます。よく確認して参加するようにしましょう。

■大学の指定校推薦について

7月19日(火)までに届いた指定校推薦の枠について、一覧表を3年生の各クラスに配付しました。1・2年生のみなさんに、どの大学から枠をいただいているかお知らせします。参考にしてください。進路指導室で、細かい条件等について確認していただいても構いませんが、毎年のように評定平均値が変わる大学もありますので注意してください(※4年制大学名のみを掲載)。

アール医療専門職大学 青森中央学院大学 足利大学 育英館大学 石巻専修大学 茨城キリスト教大学 医療創生大学
植草学園大学 浦和大学 江戸川大学 大阪行岡医療大学 開智国際大学 神奈川工科大学 金沢学院大学 亀田医療大学
川村学園女子大学 関西国際大学 関東学院大学 共栄大学 神戸医療福祉大学 郡山女子大学 駒沢女子大学
埼玉学園大学 埼玉工業大学 相模女子大学 作新学院大学 札幌大学 秀明大学 淑徳大学 松蔭大学 尚絅学院大学
城西大学 城西国際大学 尚美学園大学 駿河台大学 聖学院大学 仙台大学 大正大学 太成学院大学 拓殖大学 多摩大学
千葉科学大学 千葉工業大学 千葉商科大学 中央学院大学 つくば国際大学 帝京大学 桐蔭横浜大学 東海学院大学
東京医療学院大学 東京工芸大学 東京情報大学 東京女子体育大学 東京聖栄大学 東京成徳大学 東京電機大学
東京農業大学 東京保健医療専門職大学 東都大学 東北学院大学 東北工業大学 東北文化学園大学 東洋英和女学院大学
東洋学園大学 常磐大学 名古屋商科大学 新潟医療福祉大学 新潟食料農業大学 日本大学(工) 日本医療科学大学
日本ウェルネススポーツ大学 日本工業大学 日本福祉大学 日本薬科大学 人間環境大学 人間総合科学大学
八戸工業大学 東日本国際大学 文教大学 文星芸術大学 平成国際大学 別府大学 北翔大学 北海道文教大学
宮城女子学院大学 武蔵野学院大学 ものつくり大学 山梨英和大学 横浜美術大学 和光大学

■ 日本学生支援機構奨学金の予約採用について

3年生の保護者の皆様には BLEND でもお伝えしていますが、日本学生支援機構の予約採用について、校内2回目の申込みの入力作業は昨日までに終了いたしました。ただし、何らかの事情で入力できなかった生徒については、7月26日（火）までに入力を済ませていただかないと「予約採用」の対象にはなりません。今年度から「確認書」について、貸与型は申込者本人のみの名前、住所の記入となりましたが、給付型については、これまで通り生計維持者それぞれ本人の記入が求められる形式となっています。校内申込み1回目の「確認書」をお預かりした時点では気づかなかったのですが、発送前に最終確認をしていたところ、何人か同じような筆跡に見えるものがありました。要項配付の際の説明会（配付プリント）や BLEND 上でもお伝えしてきましたが、日本学生支援機構の書類チェックは厳しいため、場合によっては、「確認書」が返却され、書き直しを求められるケースがあるかもしれません。申し訳ございませんが、その際にご対応いただきますようお願いいたします。

■ 高3生に進路講話



少し前の話になってしまいますが、6月14日（火）の1校時に、特進コース以外の3年生を対象に、「高大接続事業」として、「進路講話」を実施しました。講師は東日本国際大学長・いわき短期大学長の中山哲志先生、いわき短期大学教授の福井朗子先生、本校卒業生で東日本国際大学経済経営学部4年の野口貴道さん、いわき短期大学幼児教育科1年の澤村瑠衣さんで、野口さんと澤村さんについては大学の担当者によるインタビュー形式で質問に答える形で進められました。

まず、中山先生は、「高校3年生の進路選択」について、「自分で選べ、デザインできるので、希望を持つことが大切である」と述べられました。関連して、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の影響で、ウクライナの大学に入学したものの学業を継続できなく、東日本国際大学の留学生別科に入学した学生の話に触れ、「戦争のため、自国で勉強できない人たちもいる」ことも認識してほしいと話されていました。

「自分で選べ、デザインできる」ことに関連して、東日本国際大学総長でエジプト考古学研究の第一人者として知られる吉村作治先生の話に触れ、「よく『夢を持つ』ことが大切というが、吉村先生は『夢をつかむ』ことが大切とよく仰っている。吉村先生は子どもの頃、いじめを受けて、図書館に通うようになり、ツタンカーメンの本を読んでエジプト考古学に関心を持ち、その研究で第一人者になられた。まさに夢をつかんだのです」と強調されていました。

「何をやりたいか」というとき、新型コロナウイルスやウクライナへのロシアの軍事侵攻など、いま世界で起きていることや自分を取り巻いている問題から考えていくことで探っていけるのではないかとのことですので、みなさんもさらに日頃のニュースなどに関心を持ち、その中から、興味・関心のあることを見つけ出してほしいと思います。

中山先生は、エリクソンのいう「青年期の発達課題」として、「アイデンティティの確立」にあることについても触れ、「I am OK!」と思える生き方ができるかどうかが大変であると話されていました。そういう状況にないと、失敗の状態である「アイデンティティ拡散」の状態にあることになってしまうとのこと。自分自身で日々納得しながら歩みを進めていけるかどうかということにもつながっていくと思います。（裏面に続く）

さて、さらに中山先生は、「大学卒業の意味」について、2点指摘しておられました。1つ目は、「大卒」でないと就けない職業があること、2つ目は、4年間を通して、いろいろな経験ができることです。

大学での学びを通して、将来の夢を考えてみても良いでしょう。「その自分の夢が社会のため、家族や地域社会など第三者のために役立つことと結びつくことが大切である」とも中山先生は話されていました。

20年、30年で社会は大きく変化します。50年前、中山先生は高校の先生に「これからは『情報』だ」と言われたそうです。まさにそうだったと話されていました。時代の先を読んで「夢」を見つけ、職業選びをしていくことも大切な要素になると思われます。

次に、福井先生が話されましたが、まず「何のために勉強するのか？」とご自身でも問われたことがあったそうで、「自分のレベルを上げるために勉強することが大切だ」と強調されていました。自分のレベルを上げることにより、選択肢を増やせるという話をされていたのが印象的でした。多くの資格取得をしておくことで、自分の選択肢の幅が広がるというのは本当に強みになります。先にもありましたが、現代社会では情報系、理科系などが得意分野だという人は選択肢が多くあるかもしれません。加えて、あまり人が取り組まない分野に取り組んでみることも強みになるかもしれません。

さらに福井先生は、地元の大学・短大に通うことのメリットについて、ご自身の経験から話されていました。地元の大学・短大については、都市部などの大学・短大と比較して施設などで劣る部分もあるかもしれないが、教員については素晴らしい先生も多く大差はないこと、そして、何といたっても地元から離れると生活費等が多くかかり、経済的に大変であることから、無理して都会に出ずとも地元で学ぶという選択肢も十分に考えるべきである強調されていました。福井先生自身も奨学金を借りて東京の大学に通ったそうですが、返済が大変だと実感を込めて話されていました。加えて、いわき短期大学の強みとして、学生と教員の距離が近いこと、悩みや就職なども含めて相談しやすい環境にあるので、幼児教育やビジネス事務に関心のある生徒はぜひ考えてほしいと話されていました。

本校卒業生の野口さんは、「しくじり先生のような感覚で聞いてほしい」との前置きの後、以下の話をしてくださいました。「はじめ、東京の大学に進学し、楽に進級できると思っていたが、東京は誘惑も多く、遊び、お酒などに走ってしまい、そのために必要なお金を稼ぐためにアルバイト三昧で2年留年し、地元に戻って東日本国際大学に編入しました。みなさんは、しっかりとした生活をして充実した学生生活を送ってほしいです。高校3年生はいっぱい悩んで、先生、友だち、親など多くの人に相談することで、自分では気づかないことも出てくることと思います」。

同じく本校卒業生の澤村さんは、高校と短大の違いについて、授業時間が高校の50分間と比較して90分間と長いこと、授業終了時間が17時40分と遅いことを挙げ、つらい部分もあるが、保育士になることを夢見て頑張っている旨、話してくださいました。

それぞれの話をぜひ参考にして、自分の進路をしっかりと切り拓いていってください。

■ 参議院議員通常選挙を受けて（安倍元首相の急死）

7月10日（日）の参議院議員通常選挙に投票に行ったか、授業を受け持っている3年生のクラスで聞いたところ、誕生日を迎えて選挙権を得た生徒のうち、7割くらいが投票に行ったようです。最初から棄権してしまった人、次からはぜひ投票に行ってもらいたいと思います。



それにしても、その参議院議員通常選挙の最中に起きた7月8日（金）の安倍晋三元首相が銃撃されたという事件はショックでしたし、真相が気になります。その後も、さまざまな報道がありますが、正直なところ、思いも寄らぬ理由に戸惑いを感じていますし、何とか命だけは助からなかったものかという思いです。

内閣総理大臣在職中は、筆者は必ずしも安倍さんを支持していたわけではありません。安倍さんの死去後、若い頃の映像が流れたりしていましたが、国会議員に初当選した頃と思われるインタビューで、「政治とカネの問題にしっかりと取り組んでいかなければならないと思っている」という趣旨の発言をされていました。内閣総理大臣在職中の後半は、いろいろと疑念を抱かざるを得ないことも浮上するなど、「長期政権によるおごり」とも指摘されるような事案が散見されました。しかしながら、初めの頃ははそういう意気込みで政治活動をしていこうとしていたのだなということを確認できました。それを貫いてほしかったという思いがあります。

外交を得意としてサミットなど国際会議などでも存在感を示し、大叔父の佐藤栄作元首相を超える歴代で最長の期間、政権の座に就いていた安倍元首相がこのような形で急死されるとはまったく考えもしなかったことで、本当に何とも言えない気持ちです。内閣総理大臣在職中、多く論争してきた野党の党首の人たちも一様に「残念。民主主義に対する挑戦。蛮行を許せない」との反応を示していました。今後、政治がどのように展開されていくのか、しっかりと見守っていきたいと思います。

さて、7月19日（火）付の朝刊で、10代の参議院議員通常選挙の投票率が34.49%で低調だったとの記事が掲載されていました。先にも記しましたが、選挙権を得たら、生徒のみなさんには選挙がある際には棄権せず、必ず投票で「政治」に対して意思表示をしていってほしいと思います。そのうえで、「政治」に対して何か言いたいことがあれば、発言してってください。それが「民主主義」の基本です。そもそも「政治」に関心のない人もいますが、自分たちの生活に直結しているのだと意識してほしいものです。

文責：清水聖（進路指導主事）